

# 令和元年度 第4四半期（2020年1月～3月）景況動向調査結果

十和田商工会議所 中小企業相談所

## 1. 調査対象

(1)対象企業数 十和田商工会議所会員 25 事業所

内訳:建設業、製造業、卸売業、小売業、サービス業 各 5 事業所

(2)回答企業数 有効回答=25 事業所(回答率 100%)

## 2. 調査対象期間

今期=2020年1月～3月

- ・前年同月比=前年同期(2019年1月～3月)と比べた今期の状況
- ・前期比=前期(2019年10月～12月)と比べた今期の状況
- ・先行き見通し=今期と比べた来期(2020年4月～6月)の見通し

## 3. 調査期間 2020年3月13日～3月23日

## 4. 表示方法

本報告書中の「DI」とは、「ディフュージョン・インデックス、景気指数」の略で、各項目について、「上昇・増加」と回答した企業の割合から「下降・減少」と回答した企業の割合を引いた数値である。

DI値が0より上の場合=景気は上向き

DI値が0の場合 =景気は横ばい

DI値が0より下の場合=景気は下向き

## 5. 調査項目ごとの状況

### (1) 業況DI

業況DIの現況判断は▲31.9 で、業種別にみると「卸売業」が▲19.8 で最も高く、「建設業」「小売業」が▲20.0 で続いている。

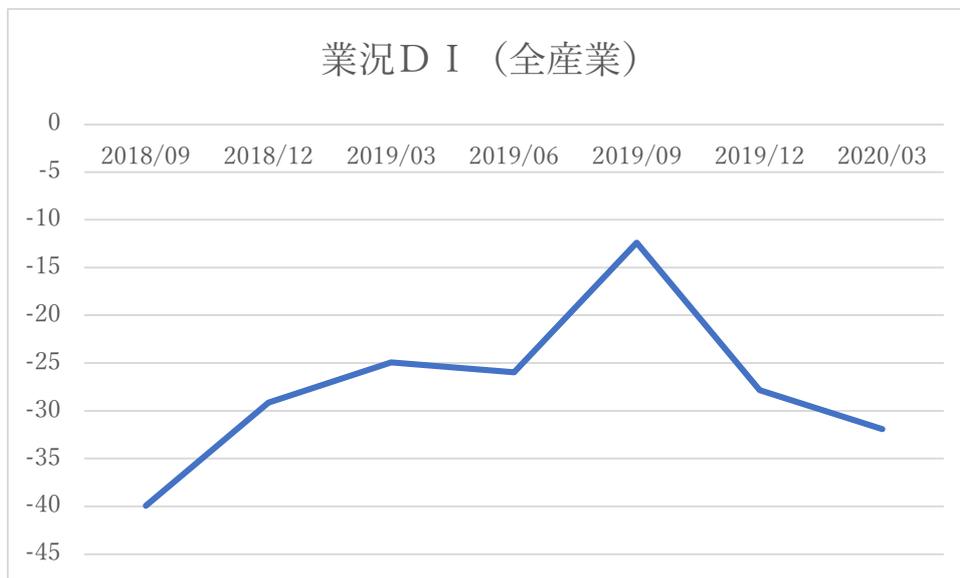
先行きは 32.1p悪化の▲64.0 で、すべての業種で悪化となっている。

図表1 業況DI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲27.8	↘	▲31.9	↘	▲64.0	↘
建設業	▲39.8	↘	▲20.0	↗	▲60.0	↘
製造業	▲40.0	→	▲60.0	↘	▲80.0	↘
卸売業	0.2	→	▲19.8	↘	▲40.0	↘
小売業	▲19.6	↘	▲20.0	↘	▲60.0	↘
サービス業	▲40.0	↘	▲39.8	↗	▲80.0	↘
(参考)全国全産業	▲29.4	↘	▲49.0	↘	▲56.5	↘
(参考)東北全産業	▲33.7	↘	▲49.3	↘	▲57.7	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)



## (2) 売上高DI

売上高DIの現況判断は▲43.98 で、業種別にみると「建設業」が▲20.0 で最も高く、「卸売業」が▲39.8で続いている。

先行きは24.1p 悪化の▲68.0 で、すべての業種で減少となっている。

図表2 売上高DI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲35.8	↘	▲43.9	↘	▲68.0	↘
建設業	▲39.8	↘	▲20.0	↗	▲60.0	↘
製造業	▲39.8	↗	▲60.0	↘	▲80.0	↘
卸売業	▲19.8	↗	▲39.8	↘	▲60.0	↘
小売業	▲39.6	↘	▲40.0	↘	▲60.0	↘
サービス業	▲39.8	↘	▲59.8	↘	▲80.0	↘
(参考)全国全産業	▲21.7	↘	▲41.3	↘	▲54.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (増加の回答割合) - (減少の回答割合)

## (3) 採算DI

採算DIの現況判断は▲31.9 で、業種別にみると「建設業」が0.0 で最も高く、「卸売業」が▲19.8で続いている。

先行きは24.1p 悪化の▲56.0 で、すべての業種で悪化となっている。

図表3 採算DI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲23.8	↘	▲31.9	↘	▲56.0	↘
建設業	▲20.0	↘	0.0	↗	▲40.0	↘
製造業	▲39.8	↗	▲60.0	↘	▲80.0	↘
卸売業	0.2	→	▲19.8	↘	▲40.0	↘
小売業	▲19.6	↘	▲20.0	↘	▲60.0	↘
サービス業	▲40.0	↘	▲59.8	↘	▲60.0	↘
(参考)全国全産業	▲23.3	↘	▲43.5	↘	▲52.4	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

#### (4) 資金繰りDI

資金繰りDIの現況判断は▲20.0で、業種別にみると「卸売業」が0.2で最も高く、「サービス業」が0.0で続いている。

先行きは12.0p悪化の▲32.0で、業種別では「建設業」「製造業」で横ばい、その他の業種で悪化となっている。

図表4 資金繰りDI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲12.0	↗	▲20.0	↘	▲32.0	↘
建設業	▲20.0	↘	▲20.0	→	▲20.0	→
製造業	▲40.0	→	▲60.0	↘	▲60.0	→
卸売業	0.2	↗	0.2	→	0.0	↘
小売業	0.0	→	▲20.0	↘	▲60.0	↘
サービス業	0.0	↘	0.0	→	▲20.0	↘
(参考)全国全産業	▲13.6	↘	▲27.3	↘	▲34.2	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

#### (5) 仕入単価DI

資金繰りDIの現況判断は▲12.0で、業種別にみると「小売業」が0.2で最も高く、「建設業」が0.0で続いている。

先行きは8.0p悪化の▲20.0で、「建設業」で下落、その他の業種で横ばいとなっている。

図表5 仕入単価DI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	▲40.0	↘	▲12.0	↗	▲20.0	↘
建設業	0.0	↗	0.0	→	▲40.0	↘
製造業	▲60.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
卸売業	▲40.0	↗	▲20.0	↗	▲20.0	→
小売業	▲60.0	↘	0.2	↗	0.2	→
サービス業	▲40.0	↘	▲20.0	↗	▲20.0	→
(参考)全国全産業	▲36.2	↗	▲22.9	↗	▲21.5	↗

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

## (6) 従業員DI

従業員DIの現況判断は 0.3 で、前期からほぼ横ばい。小売業を除く業種でやや人手不足感が強まっている。

先行きは横ばいの 0.3 で、すべての業種でほぼ横ばいとなっている。

図表6 従業員DI

	2019年 10~12月期 (前回調査)		2020年 1~3月期 (今回調査)		2020年 4~6月期 (先行き)	
		前期比		前期比		今期比
全産業	0.4	↗	0.3	↘	0.3	→
建設業	0.6	↘	0.4	↘	0.4	→
製造業	0.0	→	0.2	↗	0.0	↘
卸売業	0.4	↗	0.2	↘	0.4	↗
小売業	0.2	↗	0.0	↘	0.0	→
サービス業	0.6	→	0.8	↗	0.8	→
(参考)全国全産業	23.1	↘	12.9	↘	12.2	↘

※(参考)は日本商工会議所LOBO調査の値を参照

DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

## 6. 業況感等に関する自由記述

コメント	業種
現状として建築技術職(現場監督者)とオペレーター、作業員の確保が厳しい状況。	建設業
人手不足による受注件数の減、工期延長等の影響が出ている。	建設業
今のところ経営に影響するほどでもないが、新車の入荷が遅れ気味である。	小売業
新型コロナウイルスによる施設の閉鎖が影響している。	サービス業
新型コロナウイルスと増税で、今後どうなるのか不安。	サービス業
新型コロナウイルスの影響により、非常に厳しい状況である。この問題が収束しない限り、売り上げの見通しが立たない。	サービス業